Reio / Issociated Reposi	itory of Academic resouces		
Title	創発をもたらす場のデザインの探究		
Sub Title	Exploring the design of a place to realize social emergence		
Author	飯盛, 義徳(Isagai, Yoshinori)		
Publisher	慶應義塾大学		
Publication year	2020		
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)		
Jal C DOI			
JaLC DOI Abstract	昨今、地域づくりにおける「場」の重要性に耳目が集まっている。場には、単に人が集まるという機能だけではなく、相互作用をもたらして、何らかの地域づくりに資する新しい活動や価値なっなわち社会的創発を生み出す可能性がある。しかし、効果的な場をどのように設計すべきかについてはこれからの段階である。そこで、本研究では、ブラットフォーム概念を中核に据えて、徹底したフィールドワークを敢行し、地域の課題解決に資する、効果的な場の具体的なデザインについて明らかにすることを目的としている。ここでいうブラットフォームとは、「多様な主体の協働を促進するコミュニケーションの基盤となる道具や仕組み」をいう。先行研究では、たの設計においては、新しいつながりが常時生まれること、資源の結合が実現すること、参加するインセンティブがあることなどに配慮する必要があると論じられている。本研究では、比較事例研究の手法を用いて、空間、コンテンツ、マネジメントのデザインとで、対観点から、効果的な場づくりの本質を考究する。今年度は、まず、空間のデザインを考察するために、イタリア・トスカーナ州のCastelfranco PiandiscoにあるAlbergo Diffuso(分散型ホテル)を訪問し、経営者のインタビュー調査を実施した。複数の空き家などを再生した取り組みは、地域全体の価値を高め、きまざまな事業を生まれていることがわかった。そのために、資源の見極めと複数の担い手の確保・育成が鍵となることもわかった。さらに、コンテンツのデザインとの考究のため、ピエモンテ州のBraにあるSlow Food運動のフィールド調査を行い、Pollenzoにある食料学大学(Università di Scienze Gastronomiche)を訪問し、食を地域資源にするための方策についてインタビュー調査、議論を行った。地を地消を中心として、資源を見出し、発信することで、事業が生まれ、地域への愛着が高まるという循環が理解できた。今後は国内も含めてさらに事例研究を推し進め、場における社会的創発が生まれるプロセスを丹念に分析することで、効果的な場ででは、今後は国内も含めてさらに事例研究を推し進め、場における社会的創発が生まれるプロセスを丹念に分析することで、知楽的な場では、場における社会的創発が生まれるプロセスを丹念に分析することで、知典的な場では、場における社会的創発が生まれるプロセスを丹念に分析することで、でいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいますないまがはいまないまがはいまがはいまないまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがは		
Notos	carefully analyzing the process of social emergence in "BA".		
Notes	Decearsh Deney		
Genre	Research Paper		

URL

https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara\_id=2019000007-20190100

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

	<b>工</b> 欠	所属	総合政策学部	職名	教授	L-Britisher:	500	(特B)千円
研究代表者	氏名	飯盛 義徳	氏名 (英語)	Yoshinori ISAGAI	→ 補助額	500 (特B)千F	(40)十口	

### 研究課題 (日本語)

創発をもたらす場のデザインの探究

#### 研究課題 (英訳)

Exploring the Design of a Place to Realize Social Emergence

## 1. 研究成果実績の概要

昨今、地域づくりにおける「場」の重要性に耳目が集まっている。場には、単に人が集まるという機能だけではなく、相互作用をもたらして、何らかの地域づくりに資する新しい活動や価値、すなわち社会的創発を生み出す可能性がある。しかし、効果的な場をどのように設計すべきかについてはこれからの段階である。

そこで、本研究では、プラットフォーム概念を中核に据えて、徹底したフィールドワークを敢行し、地域の課題解決に資する、効果的な場の具体的なデザインについて明らかにすることを目的としている。ここでいうプラットフォームとは、「多様な主体の協働を促進するコミュニケーションの基盤となる道具や仕組み」をいう。先行研究では、その設計においては、新しいつながりが常時生まれること、資源の結合が実現すること、参加するインセンティブがあることなどに配慮する必要があると論じられている。本研究では、比較事例研究の手法を用いて、空間、コンテンツ、マネジメントのデザインという観点から、効果的な場づくりの本質を考究する。

今年度は、まず、空間のデザインを考察するために、イタリア・トスカーナ州の Castelfranco Piandisco にある Albergo Diffuso(分散型ホテル)を訪問し、経営者のインタビュー調査を実施した。複数の空き家などを再生した取り組みは、地域全体の価値を高め、さまざまな事業が生まれていることがわかった。そのために、資源の見極めと複数の担い手の確保・育成が鍵となることもわかった。さらに、コンテンツのデザインの考究のため、ピエモンテ州の Bra にある Slow Food 運動のフィールド調査を行い、Pollenzo にある食科学大学(Università di Scienze Gastronomiche)を訪問し、食を地域資源にするための方策についてインタビュー調査、議論を行った。地産地消を中心として、資源を見出し、発信することで、事業が生まれ、地域への愛着が高まるという循環が理解できた。

今後は国内も含めてさらに事例研究を推し進め、場における社会的創発が生まれるプロセスを丹念に分析することで、効果的な場の 設計における実践知の創造に貢献したい。

#### 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Nowadays, the importance of "BA (places to interact)" has attracted attention. There is a possibility that not only the function of gathering people but also interaction will bring about new activities and values that contribute to community development, that is, social emergence. However, it is hard to say that there is still sufficient discussion about how to design an effective "BA".

Therefore, the aim of this study is to clarify the concrete design of an effective "BA" that contributes to the solution of community problems by putting the platform concept at the core and carrying out thorough fieldwork.

The platform here refers to "tools and mechanisms that are the basis of communication that accelerates collaboration between various actors". Previous studies have argued that the design must be considered that new connections are always created, that resources are gathered together and combined, that there are incentives to participate, and so on. In this research, I study the essence of effective "BA" creation from the viewpoint of design of space, contents, and management, using the method of comparative case study.

This year, I visited Albergo Diffuso (distributed hotel) in Castelfranco Piandisco (Tuscany, Italy) and conducted an interview survey with the owner in order to consider the design of the space. The survey has revealed that efforts to renovate some unoccupied old houses increased the value of the entire community and created various businesses. Therefore, it was also found that resource identification and securing / development of multiple actors is the key point. In addition, to study the design of contents, I conducted a field survey of the Slow Food movement in Bra, Piemonte, and visited the "Università di Scienze Gastronomiche" in Pollenzo to make foods community's resources. Interview survey and discussion were conducted. Through finding and introducing resources from the concept of "local production for local consumption", I was able to understand fully the cycle in which businesses were born and attachment to the community was enhanced.

In the future, I would like to contribute to the creation of practical knowledge in effective "BA" design by conducting further comparative case studies, including some Japanese cases, and carefully analyzing the process of social emergence in "BA".

compared to be because, including come capaneous cases, and carefully analyzing the process of coolar emergence in						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
飯盛義徳	地域づくりのプラットフォーム	学芸出版社	2015年5月			
飯盛義徳	地域におけるファミリービジネスー 地域づくりの観点から-	ファミリービジネス学会全国大会	2015 年 9 月			
飯盛義徳	地域におけるファミリービジネス	『日本のファミリービジネス』中央経済社、pp.145-161	2016年8月			
飯盛義徳	ICT と地域づくり	日本農業新聞	2016年8月			
飯盛義徳	地域資源をいかに展開するか	『自治体法務研究 No.48』ぎょうせい、pp.6-11。	2017年2月			
飯盛義徳	新·地方創生 巻頭言	KEIO SFC JOURNAL Vol.16 No.2	2017年3月			

飯盛義徳	地域の資源を発信するよろずやと しての郵便局への期待	逓信「耀」一般社団法人通信研究 会	2018年2月
飯盛義徳	これからの地域づくり-効果的なプラットフォーム設計-	全国町村会	2019 年 4 月
飯盛義徳	地域づくりのマネジメントーつながり をつくり創発を生む仕組みづくりー	総務省全国地域づくり人財塾	2019年5月
飯盛義徳	地域づくりのプラットフォーム形成	政策総合大学院大学	2019年8月
飯盛義徳	多様な主体による地域づくりをいか に実現するか	埼玉県、一般財団法人地方自治研 究機構	2019年11月
飯盛義徳	基調論文 大学連携による地域づ くりをいかに進めるか	『月刊地域づくり』一般財団法人地 域活性化センター	2019年11月